

43人が新成人に 町成人式



町民憲章を唱和する新成人たち

8月15日、新成人の門出を祝う町成人式が町文化センターで開かれ、式典のほか、記念講演や懇親会も行われました。

昭和から平成へ
新時代に生まれた43人

今年の新成人は、昭和63年4月2日から平成元年4月1日の間に生まれた43人で、今回はそのうち37人が出席しました。

式典では、まず景山享弘町長が「皆さんは昭和63年から平成元年という、ひとつの時代が始まる記念すべき年に生まれました。それから20年、皆さんには大人としての権利が与えられますが、義務も負うこととなります。これから皆さんの時代です。大きな夢と希望を持って、その実現に向けて進んでいってください」と式辞を述べました。

そのあと、中学時代の恩師である箕浦昭彦さん、岡慎也さん、松島博美さんも、中学時代のエピソードを織り交ぜながら激励の言葉を贈り、また町長から記念品の贈呈も行

われました。

ふるさとを胸に
それぞれの道を

続いて、新成人を代表して、三輪典弘さん（貝原）と石田健宏さん（下榎）が誓いのことばを述べました。三輪さんは、「久しぶりにみんなの笑顔が見られてうれしい。進む道はさまざまだが、いつも心にふるさとを感じながらそれぞれの立場で社会に貢献したい」と話し、石田さんは、「63年目の終戦記念日に成人式を迎えるにあたり、多くの人々



三輪典弘さん



石田健宏さん

の犠牲のうえに私たちが暮らせていることを心に刻み、戦争のない平和な世界を私たちの手で作り上げたい」と決意を語りました。
式典終了後には記念講演が行われ、県西部の助産師の皆さんによる命と性についての話を聞き、そのあと懐かしい学校給食を食べながらの懇親会が開かれ、友達どうし再会を喜んでいました。



今日のメニューは？

自分の生きる力を信じて これからの人生を

記念講演「命つむぐ君たちへ」

今回の記念講演では、助産師の山根美奈子さん（野田）、仲田豊実さん（南部町）、西江順子さん（米子市）を講師に迎え、命の誕生や性と生殖の健康などについての講座が行われました。

講演内容（抜粋）

助産師は、性と生殖の健康と権利を守る仕事をしています。出産だけでなく、思春期の子どもたちから更年期の女性に関わったりしているほか、いろんな女性の病気やパートナーからの暴力（DV）などにも支援しています。

出産には女性だけでなく男性の力も必要です。男性がそばでどのように支えてくれるかで赤ちゃんの育ち方もずい

ぶん違ってきます。

若い人たちの性の問題として、性感染症や人工妊娠中絶などがあります。性感染症にかかると、症状が出ないうちにほかの人に感染させてしまったり、がんなどほかの病気にかかりやすくなったりするので注意が必要です。

性とは、相手との人間関係。二人の気持ちや行動を分かち合いながら未来を話し合えるようなカップルが素敵なのではないでしょうか。

この世にむだな命はひとつもない。生まれ来ることは当たり前だけどすごいこと。自分自身の生きようとする力を信じて、これからも自分らしく生きていってください。



出産の仕組みを解説する山根さん（左）と仲田さん



町関係者や恩師らと記念撮影